

は朱雀、「東(春)」には青竜がそして「西(秋)」には白虎の神がいるとされているのによろのだろう。北原白秋という名前も西原白秋とした方が味が出るかもしれません！
バラ色の「青春」というのもこう考えると楽しくなつて来ます。 END

Prop-word 'one' について

森 岡 敬 史

原稿締め切り数日前に特異「数詞」について題材を探していると何時の間にか興味が Prop-word one の方に傾いたためここにそれを纏めようと思います。

〔I〕 Prop-word とは形容詞に添えて複合語、又は句の形としてこれを(代)名詞化する語を指すのである。Body(everybody, anybody, etc.), Thing(everything, nothing, etc.)one 等がそれである。Body は personal に Thing は neuter に one はそのどちらにも用いる。又 Prop-word 'one' は不定代名詞 one を指し Prop-word の中で一番重要なものである。

現代英語の a good one の講義の起源について多くの人々が説明しているが明確な決め手はまだ無い。唯不定代名詞 one は数詞から生まれたに違いないと云うだけである。

数詞には大別すると基数詞と序数詞があり基数詞には(代)名詞的用法、形容詞的用法がある。序数詞にもその2つの用法と副詞的用法がある。しかし大部分の数詞の用法は代名詞的用法と形容詞的用法である。

(1) 名詞的用法

One of them went below.

She was scarcely nineteen.

He was the first to help me.

(2) 形容詞的用法

I saw the girl three years after.

The first man who had spoken to them, laughed too.

数詞の名詞的用法は上の例でも解かるように全く形容詞的な面を持つている。つまり数詞の後に名詞を補ない数詞自身が形容詞になることが容易なものが大部分である。

One person of them……, nineteen years old, the first man, etc. これからして数詞を実体を表わす詞、つまり名詞、性質、形状を表わす形容詞、状態、変化を表わす動詞等と同じレベルに位置する品詞として認めるよりは、形容詞の再区分されたものとして形容詞の中を含める方がより自然であるし便利であると思う。又数詞の名詞的用法は代名詞的でもある。なぜなら She was scarcely nineteen (years old) の例をとつてみると確かに (years old) は略されているが She was nineteen という言い方も今日普通でむしろ一般的でさえもある。この場合単に略されているだけではなく nineteen そのものが years old を含んでおり代用しているのである。つまり nineteen は名詞的用法ではあるが、至つて代名詞的意味合いの強いものである。このことから数詞を代名詞の範疇に入れる人もある。ともかく数詞 one は頻度数も多く又以上のような数詞の性質からより自然な形で実詞と交換できることが不定代名詞となつた大きな原因であろう。しかし one を不定代名詞化する決定的な変化は a good one のような語順が出来上がった時である。Jespersen はこれを次の様に説明している。「これはある程度 it rains や I think it necessary to wait の it 又 there was peace や let there be peace の there の使用法と似ている。つまりこの様な場合、その特別な場所に、ある語を取ることに我々が慣れると、ある語はそこに必然的となる。it, there は主語又は目的語と入れ替わるように、one は普通、実詞と交換することが出来る。我々は a good man, a great house etc. の言い方に慣れているので a good とか a great という表現はむしろ雅致の無い表現と感じる。だから一般的なバランスと云うものは a good one, a great one と云うことにより保たれる。と云うよりむしろ我々は中世英語の ān (one an a) great や great an (one) の双方ともに欠けている様に感じられたバランスが双方を混成することにより保たれたと感ずるのである。」このようにして one はその範囲を拡張複数 ones 所有格 one's, ones' を取るようになった。

- 〔Ⅱ〕 prop-word one は先行する名詞を受ける場合と独立的に用いられる場合とある。Jespersen は前者を Anaphoric one と呼び後者を Independent one と呼んでいる。The little one が the flower のように前に述べられたものを示す時は anaphoric であり、前に述べられておらず独立的に用いられた時は independent である。その時は the child を表わす。

両者とも一般に強勢を持たないのが特色である。

(A) Anaphoric one

人にも物にも用いられ単独で用いられる場合と修飾語句を伴う場合とがある。

(1) 単独で用いられる場合

I want an overcoat, but I have no money to buy one with. Why don't you call a cop? There stands one on the corner.

この用法の one は prop-word one としての特色を最もよく表わすと共に数詞 one としての性質も備えている。即ち既述の語を受けてはいるが一定の人、物を指してはいないから one を it, he 等で置き替えることはできない。又「1」の意味を持つていることも明らかである。この用法に於ては複数形 ones は使われない。

I kept always two books in my pocket, one to read, and one to write in. の one は数詞である。

(2) 修飾語句を伴う場合

先行する語を受ける場合と後行する語を受ける場合がある。前者は複数形 ones も用いられる。又修飾語句は one に対して前置と後置とがある。

(4) 先行する語を受ける場合

① 修飾語句、の前置

American railway terms are somewhat different from English ones.

The fire-place was an old one.

All three boys have a good record at school, but I do not know which one's is the best.

② 修飾語句の後置

I have sung many songs, but never a one so gay.

When you get a new pen (or new pens), get one (or ones) with a sharper point (or sharper points).

This pen is better than the one which you hold in your hand.

one が付加詞の前に来た時或るものは数詞の力を強く残している。例えば
They gave presents to one another. しかし大部分はこの位置で one は弱い意味しか持つておらず、付加詞に係る実詞としての文法的機能しか持つていない。

- ③ 質量語。(mass-word)には anaphoric は用いない。不定代名詞 one は数詞から起つたのでありそれは数えられる物のみ代名することが出来るのである。このことから質量語には anaphoric one を用いないのは当然である。スウェーデンの文献学者の文の中に英語らしくない次のような文がある。
The material to be taken into consideration is the following one.

- ④ 定冠詞を伴う比較級、最上級の形容詞の後、特に次へ of を従える時は用いないことが多い。

The elder of the two brothers.

His method is not perhaps the best.

相対応する2個の形容詞がある場合、第2の形容詞の後でも又、用いないことが多い。

The old world and the new.

Will he be a good sailor or a bad?

- ⑤ 人を表わす代名詞の属格の後にも用いないことが多い。特に own を伴う場合には決して用いない。

That house is my uncle's.

I am not a tenant of this house; it is my own.

- ⑥ 基数詞の後にも用いない。又序数詞の後も避けられる。

You have got three rabbits and I have only one.

William is the second scholar of the class and Henry the third.

しかし Two grey houses and three black ones.

のように数詞+形容詞+oneは可能である。

- ⑦ the one が指示代名詞として用いられる時、属格の意味を表わす 'of, -phrase の前では that those の方が好まれる。

modern schools and those of a century ago
this basket and that of my brother's

- ③ 「a(an)+形容詞+one」の形は多いが不定冠詞が one の直前に来るのは通常特殊の場合だけである。such a one, many a one, what a one, too~a one, as(so)~a one, 等に限られている。

We cannot have such a one as we hoped.

The windows....., he broke many and many a one.

What a one he is!

The chance was too good a one to be lost.

The street was not as desolate a one as

I could have wished it to be.

Shakespeare は such an one と such a one の両形を用いている。古い形ではまだ a が an の形をとることもあつた。そして such an one は19Cにもまだ文語的な味を出すために用いられていた。

- ④ prop-word one は大部分の形容詞的用法の不定代名詞に添えることも出来るが all, both, few, enough, に添えることは出来ない。each, other には稀である。many は先の如く many a one の形に於てのみ可能である。

Here are two fine pencils: you may have both,
you may have either(one).

Is there among the new books any one that would
interest a boy?

Her dress was the same(one) she wore last week.

不定代名詞 any, some, every, に加える場合には anyone, someone, everyone の様に一語として書くことが多い。

しかしこの場合には one の意味は薄れ、唯文法的機能しか果さなくなる。離して用いる時は one の数詞的意味が一般に強くなる。

- (四) 後行する語を受ける場合

部分を示す of を従える。

Either one of these two books

Any one of the boys could have told you where to find him.

You may take any one of these apples.

最後の例文は数詞であり強勢を持つている。

(B) Independent one

先行、後行の語を受けることなく、それ自身で人を表わす語である。ただし young one, little one については動物を指すことがある。

① The lark and her little ones.

He is queer one.

Listen to me, my sweet one.

No one came to the meeting, no, not a one.

② She lay like one dead.

She is the very one to make you happy.

Three-and-twenty と twenty three の違い

山 本 美 代 子

数詞について、一全く方向のわからない私はとにかく「数詞」という言葉の項を本から選び出し、書き写すことにした。そうして偶然に見つけたのが次のような既成の問題と解答である。自分でまず問題点をみつけ、それを自分でときほぐしていかなければならない所なのでは、自分には自信がもてないし、又面白い問題ですので、それをそのまゝ紹介することにしました。

Three-and-twenty と twenty three の違い

C. O. Dには単に twenty-three 式の方が普通、P. O. Dには twenty-one (-nine) or (esp. in stating age) one(-nine)-and-twenty.と出ている。この問題を扱った参考になるものに安井 稔「英語学研究」と小川佐太郎「形容詞・副詞」があるが、大体同じ結論なので一つに要約し若干の補足を加える。

- (1) three-and-twenty (もしくは three and twenty) O. E. 以来の古い言い方で(cf. ger. drei und zwanzig), twenty-three はその後フランス語の影響によつて生じたと言われている。